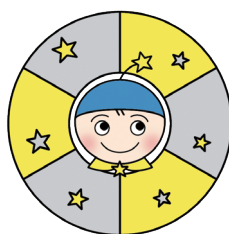


わくわくエピソード



よこはま☆保育・教育宣言

「よこはま☆保育・教育宣言」に
基づく保育実践アンケート

こどもの姿を語り合おう

～今と未来を生きる子どもを育むために～

横浜市こども青少年局保育・教育支援課
令和8年7月

はじめに・・・

令和7年度に実施した「『よこはま☆保育・教育宣言』に基づく保育実践アンケート」では、皆様からたくさんの「わくわくエピソード」をいただきました。

どのエピソードも、宣言に掲げる「安心できる環境をつくり、一人ひとりを大切に保育します」や「子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします」の理念を大切にした実践です。それぞれの園で、こどもの興味関心に合わせながら、保育者の皆様がこどもと一緒にわくわくを楽しんでいる様子がかえりました。たくさんのエピソードをお寄せくださり、ありがとうございました。

寄せられたエピソードをもとに、いくつかの実践をまとめました。

ぜひご覧いただき、園内においてわくわくする気持ちを職員間で共感し、日頃の保育を語り合う機会としていただけると幸いです。



※わくわくエピソードは、

園からご提供いただいた内容のまま掲載しています。

「ドキドキ何ができるの？」

5歳児が小玉すいかの苗を園庭のプランターに植えたが、乳児クラスの子どもに抜かれてしまった。代わりに給食に出てきたメロンの種を植えた。しばらくして子どもが小さい何かになっていることに気づき、それから、水をあげたりして育てていた。かぼちゃ？すいかの苗が残っていた？メロン？と子どもたちも興味を持って育てていたが、メロンの筋が現れ、あの時植えたメロンの種が育ってできたメロンであることがわかった。収穫し、一口ずつ食べてみたところ「メロンだ～」と大喜びだった。



「食虫植物博士」

テレビで見たのか、食虫植物に興味を持ったAくんが「先生、ハエトリグサについて調べてみて!」と言ってきました。何を知りたいのか分からなかったので「何を調べたいの?」と尋ねると、「ハエトリグサは虫が来ると食べちゃうんだ。こういうやつ（ウツボカズラ）は袋の中に入ると食べられちゃうんでしょ」と答えました。最近は保護者も「調べ物＝ネットで検索」という傾向が強く、Aくんもすぐにネットで調べてほしそうでしたが、あえて図鑑を購入することを約束しました。すると翌日も「本まだ来ないの?」と言いながら、自分でハエトリソウの絵を描いて到着を楽しみにしていました。本が届くとAくん以外にも多くの子どもたちが集まり、Aは自分の知っていることを仲間に伝えながら楽しそうに話していました。その後、食虫植物への興味がまわりに広がり、まわりの子たちにより「すいこみしき・とじこみしき・落とし穴式・ねばりつけしき」などがあることに新たに気づき、みんなで調べてきたことや作品、実物を並べた食虫植物コーナーができあがりました。今は、さらにラフレシアの興味へつながっています。



「アイスクリーム屋さんで～す」

夏場の水遊びから発展した氷遊び。その後「アイスクリーム屋さんになりたい！」という子どもの声からアイスクリーム屋さんへの興味が広がった2歳児さん。メニューづくりやアイスクリーム屋さんの帽子作り、紙粘土に色々な色や具材（キラキラビーズなど）を混ぜてアイスをつくるまで発展。本当のアイスを作りたい！と色々調べて・・・牛乳と砂糖を混ぜたものをビニールに入れて塩氷水へいれて作ってみるようになりました。当日はビニールに材料を入れて冷やしては空中でビニールごとぐるぐるとヘリコプターのように回し回し・・・びちょびちょでも、とっても美味しいアイスができました！中にはビニールが少し破れて、塩水味のアイスもありましたが、それも美味しい！とても楽しい時間でした！



「探究中」

園庭の木から樹液が出ているのを見つけたこどもたち。それを取ってアリに与えてみたが食べず、アリの食べ物について探求が始まった。

まずこどもたちが入れてみたのは砂糖とチョコレート、そこに集まるアリたちがお互いに口を当てているのを見て、「えいようこうかんだよ」という声が上がった。えいようこうかんでなに？そこから探求が広がっていった。



アリの生態を調べ、今度は自分たちも園庭でアリを捕まえて飼育してみることにした。しかし、数日で死んでしまう。なぜか？ある子が、「同じコロニーじゃないと喧嘩してしまうんだ」と言った。今度は同じ巣穴から捕まえることにした。すると死んでしまうことはなかった。学びが深まる。

さらに興味関心が高まり、こどもたちが実験道具を用意し、「アリがどのくらいでチョコレートを見つけ出すのか」という実験が始まった。巣からペットボトルにストローを渡し、ペットボトルの中にチョコレートを用意。ドキドキわくわくでその様子をうかがっている。なんと1分でアリはとなりのペットボトルのチョコレートに到着。

「すごい！早いね！」と驚き、さらに探求心が高まっていった。



「楽しいお店屋さんごっこ」

大型ブロックで遊んでいると囲いを作って2歳児を中心にお店屋さんごっこが始まりました。その様子から、おやつのやきそばで栄養士が焼きそば屋さんをし園児がお客さんとしてやきそばをもらって食べるお店屋さんごっこをしました。0, 1歳児のお友達もお店屋さんごっこの体験ができました。そのあとの時間もお店屋さんごっこが広がり、ドーナツ屋さん、ジュース屋さんなどになりきって楽しむ様子が見られました。子どもの様子から遊びが展開されたわくわくエピソードでした。



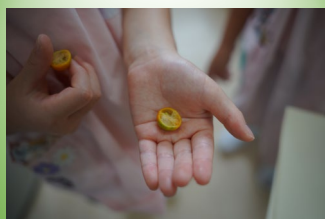
「元気に育て、野菜たち」

小さなお庭に栽培物を育てています。野菜はほぼ種から育て小さい芽がでたときは大喜びでした。水を毎日あげ、すくすくと育つ様子を「大きくなったね」「お花が咲いたね」「小さい赤ちゃんの実だ!!」、と一つ一つの成長をみんなで喜び合いました。時には、2歳児の子が嬉しくって小さい実をさわり、とれてしまったことも、赤くなったトマトを収穫前にカラスに取られてしまったこともあり「どうしたら食べられないか」と、子どもたちが策を練ることもありました。やっとやっと育った夏野菜!! 収穫できたときは大喜びで、大嫌いなピーマンも年長組が育て、包丁で切ってくれたピーマンであること、大好きな絵本「まほうのわくわくおにぎり」に出てきた「ピーマンとツナのおにぎり」だったこと、4・5歳児は自分たちでおにぎりを握ったこと・・・と、たくさんの経験を経て食べたピーマンのおにぎりは格別においしく、大嫌いなピーマンが「好きだよ!!」と、たくさんの子が言える野菜になりました。お庭では今度は冬野菜を育てています。庭に野菜を植えることで、カマキリ・テントウムシ・蝶などの隠れ家にもなり、土を掘り起こせばミミズや幼虫に出会え、何の虫か調べたりと、栽培を通して子どもたちの発見に終わりはないです。



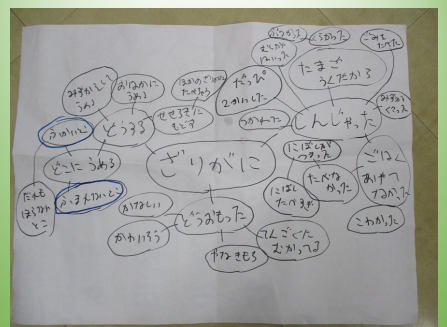
「探究心でつながる」

『この実はなんだろう？』（年長5歳児）Aちゃんが登園中に拾ってきた小さな実。「この実はなんだろう？」と子どもたちは興味津々。触る、みる、嗅ぐ・・・と五感をつかってその実に親しむなかでもっとその実について「しりたく」になりました。実を切り断面を見てみる、マイクروسコープで見てみたり、図鑑で調べたりするなかで「[みかん]か[きんかん]だろう」という予想が立ち、紙とシールを持って、先生や友だちにアンケートをとってみることに。その結果、「みかん」と一度は決まるもののなんだか納得のいかない表情を浮かべる子どもたち。すると、その実が落ちていたお家の方に聞いてみようという声が上がりました。子どもたちが手紙を書いてポストに投函したところ（事前に職員が電話でアポをとり）、園に来て教えていただく機会をつくっていただけることになりました。園に訪問してくださり、話を聞いてみると、なんとその方は何種類も柑橘系を育てている「柑橘系のプロ」でした。子どもたちの調べた実は「（まだ大きくなる前の）みかん」で大正解でした。その実の答えだけでなく日本にあるみかんの種類についてやお庭で育てている柑橘類の葉っぱを持ってきてくださり、比較をしたりとたくさん「おまけ」の学びをくださいました。翌週、お礼をすると「自分たちが掘ったさつまいも」と「自分たちが育てたフウセンカズラの種」を届けにいきました。（またまた、そのお礼にフウセンカズラの種を使った飾りをくださいました。）「道端の実をみつけた」というほんの些細なできごとから、こうして地域の方とのつながりやかかわりが生まれ、ありがたい気持ちとうれしい気持ちに溢れた出来事でした。



「ザリガニとの出会いと別れ」

年長児でブームになっているザリガニ。きっかけは散歩先の川でザリガニを見つけ「釣りたい」となったことが始まりでした。「どうやったら釣れるか」を考え、木の枝や草を使って釣竿を作ってみたり、実際にザリガニ釣りをしている他園の様子を見て、「何が必要か」に気が付いたりするなど試行錯誤をして、ついに釣ることに成功！！しかし、保育園では飼う環境がなく、泣く泣く逃がすことに。だが、子どもたちの情熱は収まらず、何度も話し合いを重ね、家を作ってから飼おうという結論に至りました。飼育図鑑を見ながら協力して子どもたちだけで飼育環境を整え、再びザリガニ釣りに挑戦！無事に釣り上げ、保育園にお迎えすることができました。その後も「エサは何かいい」「水換えも必要だ」などいろいろ話し合いながら世話をしていきました。ある日、ザリガニが水面に浮いていることに一人が気付く、みんなで「元気がないのかなあ」「死んじゃうのかな」と心配していた次の日！！なんとザリガニが二匹に増えていた！と思ったら、それは脱皮した皮でした。その後もお世話は続いており、最近二度目の脱皮をしました。他のクラスにも世話の仕方を教えたり、かわるがわるみんなで観察したりしながら、「赤から青いザリガニになったよ」「次は白になるのかな」などロ々に話をしています。というエピソードを書き上げた数日後。ザリガニは死んでしまいました。「どうして死んでしまったのか」をサークルタイムで話し合い、お墓を作って埋葬しました。子どもたちなりに、生き物と出会いと別れに向き合った良い経験となりました。



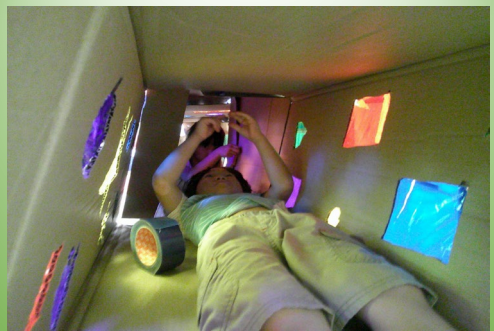
「台風接近」

ある台風接近の日にお昼寝から起きると、雷と大雨の荒れた天気になっていました。幼児クラスの子も達は興味津々で「なんで光っているんだろう」「どこから音がするのか」「ちょっと怖いかも」などの声が上がりました。ちょうどおやつの時間だったので、みんなで外に見えるテラスのソファに腰掛け、おやつをお供に鑑賞会を始めました。おやつを食べながらも「だんだん音が大きくなってない？」「あっちの方で光ってるよ」と口々に話しながら、雷や雨、風の変化に興味を尽きず、そのままお迎えの時間が近くなっても鑑賞会は続けました。雨足が強まってくると外の様子も見えにくくなり、いつもはよく見える園に入ってくる人影もハッキリ見えなくなってきました。ぼんやりと人影が近付くと、A君が「あ！〇〇ちゃんのお母さん！」と大きな声で教えてくれました。「本当だ！」「よく分かったね！」とみんなに褒められたA君も、そして「私のママだよ」とお迎えが来た子も、2人ともとても嬉しそうです。そこから、次のお迎えは誰？と、皆でクイズのように盛り上がり、雷と雨も怖くないわくわくのお迎え時間となりました。日常の保育の中で、自然事象の変化への興味があり、不思議と気付きがあり、そしてクイズの楽しさや迎えの喜びなどたくさんの気持ちを友達と共有する姿がありました。何気ない1日にも、子ども達の学びと育ちをたくさん感じる事が出来ました。子ども達にとっての世界が様々な色を持ってどんどん広がっていくように、私たち保育士も共に気付きを考え共に楽しみながら見守っていきたいと思います。



「光の楽しさ発見」

5歳児クラスでは影絵遊びを楽しんだのをきっかけに「光」ブームが到来。トイレットペーパーの芯に色セロハンを貼って覗いてみたり、「暗いところで明かりをつけると面白い」と狭いところに懐中電灯を待って潜り込んだり、カラープラコップに懐中電灯を入れて照らすと、床に色が映ることに気づき、重ねるとどうなるかな？と濃淡の変化を試したり。そんな姿を見て担任が、段ボールやカラーセロファンを用意したところ、穴を開けてセロファンを貼って、つなげて・・・「中から見るとどうなってるかな？」「ライトを当たるときれいだね！」と話しながら、『きらきらトンネル』づくりが始まりました。サークルタイムで、「作り溜めた『きらきらトンネル』で『きらきらトンネル迷路』を作りたい！」ということになり、クラスでたっぷり楽しんだ後、他クラスも招待しました。その後、招待してもらった4歳児がセロファンで窓飾りを作ったり、「光」ブームが広がっていきました。



「ゴリラ屋さん開店！」

今年度の夏祭りの店は『アイス屋さん』『眼鏡屋さん』『宝石屋さん』『虫屋さん』に決定。ところがAさんとBさんは「やりたいお店がない、、、」と活動に参加しようとしません。そこで何をやりたいのか聞いてみると「ゴリラ、、、(小声)」とのこと。すぐに折り紙で作れるゴリラを調べ、一緒に作り始めました。次の日の朝の会で幼児クラスの子どもたちに「ゴリラ屋さんやってもいい？」と聞いてみると「いいよ！」「作るの手伝うよ！」と優しい声。5個だったゴリラがあっという間に30個に。しかし、商品としては足りないねと話していると「ゴリラみたいにドラミングした人じゃないとあげない」というルールを考えたAさん。Aさんの持っている知識と面白いアイデアが光っています。当日はお客さんがドラミングする面白い姿やゴリラがたくさん売れてとても嬉しそうなAさんとBさんの姿が見られました。夏まつり大成功！



「おいしい餃子はいかがですか」

(2歳児4月の様子) お家で餃子づくりをした子が、クラスのおままごとでも餃子を作り始めた。すると、「わたしもやりたい！」と一緒にやる子が増え、餃子づくり講習が始まった。翌日の散歩でも、自然物を使い餃子を作る姿が。次の散歩では、コーヒーフィルターを持っていくと、コーヒーフィルターを餃子の皮に見立てて、しっかり包んで餃子を作る姿が見られた。クラスのおままごとでもコーヒーフィルターを用意しておく、食材に見立てて詰める様子があり、今度は作った餃子をフライパンに並べてふたをして焼く姿が見られた。こんなに餃子が好きになっているならと、本物の餃子を焼いて試食することに！焼きあがるまで子どもたちはつい立てにつかまり、今か今かと待ちどおしい様子。いざ食べてみると、「もっと食べたい！」との声。そこで、自分たちで餃子を作ってみることに。生肉は使えないので、鶏そぼろをあんにして自分で作って食べてみると「次は〇〇を入れたい！」という声があり、何を入れるか子どもたちと相談し、チーズ餃子といちごジャム餃子を作ることに。アレンジ餃子もおいしくみんなで食べました。遊びの中でも、餃子からピザへと発展し、部屋でも散歩先でも遊びがつながっていました。ピザも作りおいしく食べました。



「” むし” 大好き」

4歳児クラスは春から昆虫への興味があり、公園に行く際も虫シート（9種類の虫のイラストが描かれている紙）をもって出かけ、見つけた虫に丸を付けて楽しんでいました。だんだんと探したい虫の種類が増えたため、虫シートは園に保管して、見つけた際に丸シールを付けていくように変更したり、丸シールの色も月ごとに変わったりしてバージョンアップし興味が続くように仕掛けをしました。昆虫に対する子どもたちの興味は続き大きくなっていったため、昆虫について知っていること、図鑑で調べたこと、見てわかったこと等を虫ごとにウェブにしていけることをクラスの活動に取り入れました。今ではICTを取り入れて、昆虫の写真をスクリーンに写してみんなで見ながら話をするスタイルになっています。小さな昆虫を大きくして見ることで、大人も知らなかった、気付かなかったことにみんな気付いて感激しています。



「オーロラ？」

「おーろらまつり」（6月園内行事） おまつりをやりたいとおまつり遊びを楽しむ中で、おまつりの名前を決めることになりました。いろいろな名前が出てきた中に「オーロラ」という言葉があり「オーロラって何？」と知らない子もいました。オーロラの写真を保育室に貼ると「キレイ」と興味津々の子どもたちでした。 そんなある日、輪投げに使おうとペットボトルや透明カップに色を塗って並べていく子どもたち。そこに懐中電灯で光を当ててみると偶然に「オーロラだ！」と壁に映る光を発見しました。自分でオーロラを作ることができる気づくと「私もやりたい！」と次々に子どもたちがやってきて、"ペットボトルオーロラ"の光に夢中になりました。 その後おまつりの名前は「おーろらまつり」になり、どうすればもっときれいなオーロラになるか、研究を重ねました。そしておーろらまつりでは「おーろらひかりタイム」というオーロラショーを行い、保護者の方々に研究の成果を披露しました。 子どもが遊びの中で発見したものを自分たちでさらに研究し、世界でたったひとつのオーロラショーが実現しました。



「まぜまぜ、楽しいね」

色が変わった！ 食紅を使った色水遊びを楽しんでいる年少さん。その中で「赤と青を混ぜたら、紫になった！」「黄色をたくさん入れたら、こんな色になった！」など、色を混ぜると別の色になることに気付いた模様。そこから、色への興味がどんどん広がっている。今は「黒を作るにはどうする？」「これとこれ、色が似ているけど少し違う！」と、色について気になることが出てきている。子どもたちの「気になる！」をキャッチしながら、担任も一緒になって色の面白さを味わっている最中。今後、どのように興味関心が広がっていくかわくわくしている。



「うまれて初めての」瞬間！

0歳児がテラスで遊んでいた時のことです。空から聞こえる飛行機の音に対して、Aちゃんは飛行機には気づかず音の方を指さし担任に伝え、Bちゃんは、空を見上げ飛行機を指さしました。小さなCちゃんは、友達につられて空を見上げたまましばらくきょとんとしていましたが、ようやく飛行機に気付くと口をあんぐりと開けたまましばらく動けず、じっと空を見上げていました。もしかすると、生まれて初めて空を飛ぶ飛行機を見た（気づいた）のかもしれないと思ったら、「うまれて初めての」瞬間に立ち会えたと思って感動し、小さな子どもたちの間にも興味・関心が広がっていく様子に保育の仕事の面白さを感じ、改めてワクワクを感じました。



5歳児が近所の鯉のぼりを見に行ったときに、見上げる鯉よりも「鯉の影」に興味津々で風に泳ぐ鯉の影を追いかけてまわっていました。また、次の散歩では近隣の公園の茂みの暗がりにドキドキし空想が広がり……。子どもたちが始めたのはお化け屋敷。セロファンで作った個性豊かなお化けたちを障子紙越しに光を当てて生まれた「光と影」のお化けたち。小さいクラスのこども達の悲鳴に俄然張り切り、お楽しみ会では保護者も招き、チケットもぎりからお化け屋敷の運営まで。お化けと光と影を楽しみ続けました。

「実験は楽しいね」

1学期に年長組が制作でボンドを使った後、ボンドが固まると面白いという話になりました。「ボンド実験してみよう」と缶の蓋に残っていたボンドを入れて固めてみることにになりました。どこにおいて固めるかを相談し、廊下の窓近くが定位置に。絵具で色を付けたりして実験が始まりました。丸い缶だと丸い形になること、乾くと透明になることなどに気付き、いろいろなものを中に入れて試す姿もありました。ブームが去ったかと思うとまた新たなものをに入れて実験をして、今（11月）は園庭で見つけた落ち葉を入れて固めています。今後どうなっていくか子どもたちの様子を見ていくところです。

ボンドがかたまるか実験

秋から3月まで

きっかけは、制作で使ったボンドが缶の蓋の中で固まり、それををはがせることに気付いた男児たち（年長）が他にも試してみたいと考えたこと
中に物を入れても固まるか、園庭の落ち葉で実験！固まったけど、はがす時、葉っぱがポロポロに。
「でも固まったね」と満足したのが、実験はこれでおしまい？と思っていたら・・・



3学期になって、「またボンド実験やりたい」というA君。預かり保育の時間に準備していると、年下の子どもたちも「やりたい！」と参加。

色をつけたい！
「絵の具混ぜても固まるかな」「赤だったのにボンドと混ぜたらピンクになった！なんで？」「乾いたらどっちの色？」

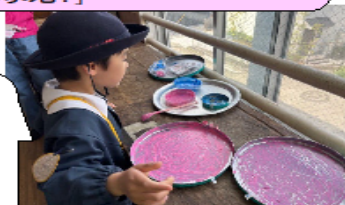
いろんな形にできるかな？

「丸だけじゃなくて、いろんな形にしたい。」「おおきーくしたい」

いろいろ入れたらどうなる？

園庭の花や葉っぱ（前回の反省からバリバリじゃないもの、キラキラしたラメっぱいのも入れて、固まるかな・・・？

A君は登園したらまず確認の日々。
「うすいやつは固まったのに、分厚いやつはまだかたまんない」



1週間後、やっと固まって入れ物から出すことができました。早く出したくて、まだ早かったのもあったけれど、色々な形で、中に葉っぱや花が入ったもの、キラキラした粒が入ったものも完成。絵の具を混ぜたものはピンクになったまま、白かったのは、だんだん透明になりました。薄いのは、はがすのが大変だった！



「おいしいパンを作ろう」

「パン好き！」の一言から子どもたちが紙粘土でパン作りを始めました。「パンダのかわいいパンを作るんだ」「松ぼっくりパン作ってみたよ」「絵具入れすぎたらチョコパンになっちゃった」など、子どもたちはたくさんつぶやきながら思い思いのパンを作っていました。作っているうちに「どうしてパン屋さんのパンはおいしいんだろう」「もちもちした本物のパンを作ってみたい！」の声。そこで、素材を紙粘土から小麦粉粘土に変えてパン作りの遊びを試みることにしました。小麦粉粘土に変えたことで、本物のパンのもちもち感が出たり、おいしそうな香りを感じることができたり、実際にオーブンで焼いてみたりしてとても嬉しそうでした。そして、この経験を経て、一層パン作りへの興味関心が深まった子どもたちからは「パン屋さんにいってみたい！」という声。子どもたちからはおすすめのパン屋さん情報も聴こえるようになってきて、いよいよ本物のパン屋さんに行ってみることにしました。パン屋さんではパンを作っているところや陳列している様子など見ることができ、一つひとつ自分たちのやってみたい、が叶っていく体験に大喜びでした。保護者の中にもパン作りが趣味の保護者がいて、担任に声をかけてくれたので、実際に子ども達と一緒にパンを作って食べてみる日も設けました。インフルエンザが蔓延して、クッキングは延期になってしまい、まだ実現できていませんが、発表会でもパン屋さん役をやりたい子がパンを作る工程を表現するなどしており、まだまだパン屋ブームは続きそうです。

「おいしいパンを作ろう」



よこはま☆保育・教育宣言

<共有したい子どもの姿・方向性>

～今と未来を生きる子どもを育みます～

宣言1

安心できる環境をつくり、
一人ひとりを大切に保育します

1. 安心感・信頼感を大切に、子どもを守ります。
2. 子ども一人ひとりを受け止めます。
3. 子どもが様々な人と関わることを大切にします。

宣言2

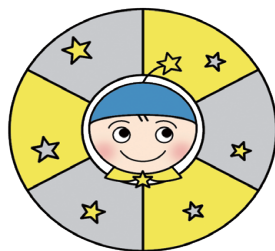
子どもの育ちと学びを支える
主体的な遊びを大切にします

1. 乳幼児期の子どもが、豊かで多様な環境と関わりながら育つことを大切にします。
2. 夢中になって遊びこむことによる育ちを大切にします。
3. 保育者の重要な仕事は一人ひとりの子どものよさを発見し、育てることです。

幼保小 の連携

乳幼児期の育ちと学びを受け止め、
小学校以降の教育につなげます

- 乳幼児期の「学びの芽生え」は、小学校低学年の「自覚的な学び」の基盤になります。
- 保育・教育施設と小学校とが顔の見える関係を築き、円滑な接続につなげます。



よこはま☆保育・教育宣言